

青梅のにじ

〈発行〉

日本基督教団 隠退教職ホーム
にじのいえ信愛荘
運営委員会 須藤 繁

〒198-0052 東京都青梅市長洲2-687
電話：0428-22-2283 FAX：0428-22-2317
Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

振替口座番号 00120-3-358467

加入者名：にじのいえ信愛荘

「にじのいえ信愛荘」と東京教区

東京教区総会議長・経堂北教会牧師

岸 俊彦



東京教区は、1959年青梅の地に隠退教職ホーム「信愛荘」を設立しました。そのため運営委員会を組織し、荘の管理運営、募金にあたってきました。1999年西東京教区が発足すると、両教区の委員からなる運営委員会がこれにかりました。そして、2010年、1973年全国教会婦人会連合によって館山市に設立された婦人献身者ホーム「にじのいえ」と「信愛荘」が合併し、「にじのいえ信愛荘」が誕生しました。これによって「にじのいえ信愛荘」は日本基督教団内センターとなりました。

それ以来、荘の運営管理については教団が委嘱した運営委員会によってなされるようになりました。運営委員は、教団、東京教区、西東京教区、全国教会婦人会連合から推薦されています。東京教区は、かつてのよう直接荘の管理運営に関わるこ

はありませんが、教区常置委員会では毎回運営委員でもある常置委員から荘の報告を受けます。教区総会では荘について議長報告の中で、「様々な面において可能な限り、その働きに協力していく所存です」と触れています。教区総会の議事の合間には、荘についてアピールする時間を設けています。

教区経常会計には毎年荘への協力を予算化しています。

また教区、支区の諸団体、各教会が荘を訪問し、入荘された方々とよい交わりの時を持っています。クリスマス、イースターには荘のお招きを受け、礼拝での奉仕や祝会で楽しいひと時を過ごし、主の恵みを分かちあい、心から主を讃え感謝を献げています。美味しく食事をいただきながら、入荘者の皆さんと懇談することは、慰めとなり励ましとなります。

思いがけない神の家族の広がりにつづかされ、伝道への志を

新たにされます。

昨年、荘のクリスマス礼拝・祝会に出席しました。その時、1979年神学校に共に入学した方が隠退教師としていらっしやいました。自分よりもやや年配の方でしたが伝道、牧会に生涯を献げられたのでしよう。隠退は自分のごく身近な将来のことだと実感させられました。決して自分のためということではなく、伝道、牧会に生涯を献げることができるよう、「にじのいえ信愛荘」は大切な働きをしているのです。

「にじのいえ信愛荘」には各教区で働かれた隠退教師、お連れ合いが入荘されています。教団年金局には教区から協力金と謝恩日献金が献げられています。同じように「にじのいえ信愛荘」にも各教区の協力をお願いする次第です。支援の輪を広げるために、荘に対する理解を深め、祈りに覚えなければと思います。「にじのいえ信愛荘」がセンターになったからといって、東京教区の責任が軽くなったわけではありせん。人的にも財的にも、そして霊的にも支援の輪をいっそう広げ強めたいと思います。

イースター 礼拝

にじのいえ信愛荘・礼拝堂

2018年4月3日(火)

司式 深山 祐師
奏楽 小林 恵姉

前奏

頌栄 5 4 6

主の祈り

交読詩編 16

聖書

ルカによる福音書
24章13〜35節

祈祷

讃美歌 21—328

説教

祈祷

讃美歌

使徒信条

聖餐式

司式 大宮 溥師
配餐 吉川幸子師
大崎敬子師

讃美歌

献金感謝祈祷

頌栄

祝祷

後奏

21—27

大宮 溥師

加藤 鈴姉
松本明子師
稲垣善子師

イースター礼拝説教

主よ、共に宿りませ



牧師

大宮 溥

ルカによる福音書

24章13〜35節

I

この頃、自分自身が年をとって人生の夕べを辿っているの思いが強くなってきました。そして本日のテキストの「エマオの旅人たち」も、春たけなわの旅でありますのに、希望を失って暗く寂しい夕暮れ道を歩んでいました。彼らは「ナザレのイエス」を「イスラエルを解放するメシア」として期待していましたのに、彼は十字架に付けられて死んでしまったからであります。

ところがこの旅人たちが、悲しみを絞り出すようにあの出来事を話していると、もう一人の人物が、彼らに加わって来て「一緒に歩き始めた」のであります。

II

この旅仲間、あの悲劇について聞きながら、聖書の言葉を、メシア(救い主)が必ず来ることを話しました。それを聞いている間に、彼らの心は「燃えるもの」を覚ええました。

ここで彼らが聞いたのは「神の言葉」でありました。「言葉」は心が音声となったものです。キリストは神の思い、神ご自身が、人間となつてこの世に來られたので、われわれはキリストに出会うとき、神の愛に触れます。それ故、我らの心は燃えるのであります。このキリストを伝えるものが「聖書」、その聖書を解



くものが「説教」ですから、「生ける神の言葉」、「書かれた神の言葉」、「語られた神の言葉」に触れて、われわれも神の愛に燃やされるのであります。

III

エマオに着いて彼らが聖餐に与ったとき、生けるキリストに触れました。われわれも聖餐においてキリストと一体となり、キリストを宿して生きるのであります。

ヘンリー・フランシス・ライトは晩年死期の近いのを覚え、「主よ、共に宿りませ」の讃美を記しました。この「宿る」はルカ福音書でエマオの旅人が、主イエスに「一緒に泊りください」と願った言葉で、「腰を据えて留まる」「深いつながりをもって宿る」という意味であります。これは、キリストと一体になった経験で、パウロが「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」(ガラテヤ2・20)と告白している体験であります。われわれは夜毎に自分を主にゆだね、最後には「み国にて覚むる」のであります。

祝会

松村誠一施設長の手際のよい司会のもと、深山祐荘長の歓迎のご挨拶でいよいよ祝会です。讃美歌21―325番の「キリスト・イエスはハレルヤ」を参加者は高らかに賛美しました。

松本明子師のお祈りで始められた会食時には、円卓に美しく用意された昼食を美味しくいただきながら、楽しい会話にも花が咲きます。司会者が説教者の大宮溥師をはじめ、ご招待客を紹介された後、四国から駆けつけてくださった長島恵子全国教会婦人会連合中央委員長から、祝辞をいただきました。次に司会者からの運営委員や職員の皆さんの紹介のあとは、在荘者の自己紹介です。3分以内と決め、過ぎれば合図がチリンチリン。そのたびに会場は笑いに包まれます。手短かに話し終える方、超過しても超然と語り終える方、共に個性溢れる素敵な自己紹介と感じ入りました。

さて、この日の主たるイベントは、ピアノスト松本由美子氏の演奏ではなかったでしょうか。留学されていたポーランドの話

にも触れながら、ショパンのバラード第1番、ノクターン第2番、幻想即興曲など馴染みのある曲を演奏してください、私たちはその名演奏にすっかり魅了されました。ちなみに、松本由美子氏は在荘の松本明子師のご長男の奥様です。



主の御計らい

全国教会婦人会連合中央委員長

長島 恵子



薄黄緑の木々の新芽にも復活の喜びが重なる4月、主と荘のお招きによりイースター礼拝と祝会に出席し、たくさんの方の恵みをいただきました。

出席者のお一人、須藤運営委員長と祝会の席で隣り合わせになりました。初対面でしたが色々な話をさせていただく中で「訪問伝道」を通して私の祖母をご存じであることが分かり、とても驚きました。礼拝の説教を

された大宮溥牧師も学生時代祖母と同じ教会（香川・多度津）で過ごされた方です。祖母が召されて20年。この様な時に祖母を思い起こすことができ、主の御計らいに感謝しました。

祖母は長い間生きる意味を探し求めた末に主イエス・キリストに出会い、救われてからは生涯忠実に主に仕え、教会に仕え、訪問伝道を使命として生きました。祈りの人で、いつも聖書を読んでいた姿が目につかびます。地方の平凡な婦人一人を選び、深い愛を注いで御業のために用いられた主は、今も活きて働いておられます。

（四国・鴨島兄弟教会員）



時間は瞬く間に過ぎ去り、讃美歌21―326番「地よ、声たかく」を皆で賛美して、須藤繁運営委員長の挨拶で閉会となりました。今回もこのような素晴らしいイベントを企画し準備くださった準備委員会の皆様に、心よりお礼を申し上げます。参加者60名。（成松三千子報）

台風が届けた贈り物



井柳福次郎

(一)

妻みどりの父、河村斎美牧師の出生地は、三重県伊勢市1丁目1番地（現伊勢市役所所在地）で、道路を隔てた所に伊勢神宮外宮がある。河村（以下敬称略）は、明治学院神学部（創立者・植村正久・富士見町教会牧師）に入学した時、桑田秀延氏、島村亀鶴氏と同級であった。卒業後、河村は和歌山県新宮教会に赴任、牧師となり、島村亀鶴氏はしばらくして富士見町教会牧師に就任された。桑田秀延氏は米国へ留学して帰国、終戦後、初代東京神学大学学長に就任された。

「青梅の里」（信愛荘30年記念誌）によれば、信愛荘建設当時、募金に応じている人々の中に桑田秀延、島村亀鶴の名前が見え

る。

日本基督教団が結成された1941年、河村は新宮教会の牧師として既に23年になり、家族も7人になっていたが、教団の要請で満州の奉天教会に行くことになり、家族全員を引き連れて渡満、奉天教会の牧師に就任、6年伝道牧会に従事するも、第二次世界大戦終戦となり、北朝鮮の新義州を経て海路を通り漁船に積み込まれ、命からがら帰国、三重県松阪教会にて7年間の伝道牧会。その後、教会がなかった阿漕で、開拓伝道を始め、阿漕教会での8年にわたる伝道牧会を最後に隠退。この時、一緒に働いたのが新宮時代の宣教師E・N・チャプマンであった。

1970年、河村斎美・秋子夫妻は共に、ここ信愛荘に入荘したが、1979年7月召天。秋子はその2年後の7月に召天。

河村斎美の葬儀は、島村亀鶴牧師が執行された。この葬儀には、荘の近所に住む子ども達数十名出席、河村師の棺を見送っていた。河村師と共に教会学校に集まり礼拝を共にしていた子ども達であった。

(二)

この教会学校のことであるが、どこで行われていたのか、集まった場所もずっと分からなかったのであるが、2016年の秋に襲来した台風により、隣接の柿の木園の太木が「にじのいえ信愛荘」の塀の上に倒れたことによって判明したのである。

この太木の処理のため、荘に來られたのが、所有者の久保荘一郎・静江ご夫妻である。

河村は、久保荘一郎氏の自宅の庭を借りて解放された所に筵（むしろ）を敷いて、そこで毎週礼拝を守った。イースターにはイースターエッグを、クリスマスにはクリスマスプレゼントを共に祝い分ち、喜び、楽しんでいたのである。主の日が来ると欠かすことなく休まず出かけて行って礼拝を守っていた。献金はすべて青梅市の社会福祉課に献金されていた。

河村没後、40年を経て、台風によって倒れた太木の処理を通して、これらのことが明らかにになった。神からの不思議な贈りもの、音ずれである。

かつて植村正久牧師は、「当時の日本において、児童伝道では、

河村の右に出る者はいない」と言われていたようであるが、河村本人においては、隠退後の日々、人生の終活の時、夕暮れ時に、児童伝道に誠心誠意をこめて打ち込むことができたのであり、待ち望んでいた「本望」であったに違いない。

河村は、一牧師として晩年、終活期10年に満たない日々を子ども達と過ごした。この柿の木園の教会学校から、1名の牧師夫人が誕生していると聞けば、本人、これに勝る喜びはあるまい。

昨今は、子どもが少ないと言われる。昔は子ども達がよく外で遊んでいた。昨今、子ども達は家にいてTV、ゲーム、学習で忙しいこともある。親や大人が子ども達と共に過ごすことがない。時代が移り変わる時の中で、「はつきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ決してそこには入れない。」（マルコ福音書10章15節）

（にじのいえ信愛荘在荘）

河村斎美師・秋子ご夫妻の三女が、井柳福次郎師のお連れ合いの井柳みどりさんです。（編集部）

にじのいえ信愛荘徒然

パート職員

古川 英子



青梅に初めて
まいりましたの
は2013年12

月でした。以前私は東京教区事務所に勤務しておりましたので、

前身の「信愛荘」と「にじのいえ」にはご縁がありました。私の怠慢はお誘いを受けながら一度も訪問したことが無いということでした。初めて伺った時の感想は、

「荘員の方々もスタッフも優しく、初めて伺ったのに皆さんが親しく接してくださり本当に感謝でした。時々荘を訪問してくださる顔見知りの先生方やボランティアの方々にも「アレ？ここで会うとは思わなかった」「ここで会えて嬉しい！」と言われ、自分も嬉しかったのを思い出しました。

あれからアツという間に4年経ち、荘員の方々も内外で支えてくださる皆様も、荘で働くスタッフも、時を経て少しずつ変わりましたが、毎朝の礼拝や祈りの中で全員がお互いを気遣い、思いやる心と、全国の教会や学

校施設の平安を祈る気持ちは変わっていないと感じています。

最近、変わったなと思うのは以前のように荘員の方々が食後直ぐご自分の部屋に帰るのではなく、お喋りを楽しみ、寛いでいらつしやることです。和やかな雰囲気にも包まれ、思わず微笑んでいます。

また昨年からテレビ鑑賞会もあり、毎回数名と一緒に集まって、ドキュメンタリーや科学番組等を楽しんでいらつしやるのも嬉しいことです。

青梅の四季は本当にハッキリしていて、朝目覚めに鶯が鳴き、色とりどりの花が荘の周りで咲けば春。燕が軒に巣を作り、蟬が鳴き、緑が濃くなれば夏。紅葉が始まり、いつの間にか虫の音が聞こえると秋。気が付くと、荘の中もクリスマス準備が始まり、庭の花も冬バージョン!! 青梅の一年がアツという間に過ぎて行きます。

今、私は「にじのいえ信愛荘」で働くことができて本当に良かったと思っています。この場所の全てが、神様のお恵みの中にあることを感謝しています。

(東京・奥沢教会員)

朝の祈りに励まされて

パート職員

照沼まりえ



人の世にある
不条理や絶望を
忘れまい。その

思いが、例えば教会での白か黒か二者択一の言葉に逆なでされたりします。「あなたはお説教の言葉の意味を考えるから。私は深く考えたりしないで教会に通ってるの」。教会員のなぐさめも、逆にその方の信仰のゆるぎない強さを感じさせられます。

そんな信仰の弱い私が「にじのいえ信愛荘のボランティアをお願い」と古川姉に頼まれたのが縁で、パートになり丸2年たちます。せめてきちんと仕事をと心がけていますが、気づけば豊かな励ましを受けていました。

壁にぶつかる度に、的確な助言をしてくれるパートの姉妹。そして清涼な朝のひととき、荘員の方々によって続けられる礼拝では、幾たびも勇気をいただいています。それは社会への無関心さを戒めるメッセージであり、戦時下の厳しい現実であり、心の闇を憂える祈りのこともありました。

日本各地で異国の地で、その地の人々との信仰生活から紡がれた生きた言葉だと感じました。飾らない言葉の重さ、豊かさに力づけられる思いでした。

また深山荘長に、かつて奥沢教会で牧師を務められた鹿島利次先生のお話を伺う機会がありました。深山荘長の先輩に当たり、「説教は、ふだんの日常生活での祈りの続きにあるべき」という鹿島先生の教えを戒めとしておられると伺いました。今も教会員から敬愛される鹿島先生のこと、この話を姉妹に伝え、喜ばれたこともあります。

人間の目には見えない神様を求めて、すべてのことに配慮する、その努力をすることこそが信仰。最近、読んだ本にあった言葉です。人の世も一生かかって少しずつ理解を深めていくものでしょう。出合いのすべてを神様のお導きとする自信は、私にはありません。それでも、荘での豊かな一コマ一コマを神様の恵みとして感謝いたします。荘員お一人お一人の不安や心配事が解消されますよう、働き人たちのよき働き方がなされるよう願っています。

(東京・奥沢教会員)

近況報告

荘長 深山 祐

【感謝】 昨年暮れから今年にかけての殊のほか寒い冬を経て、復活節と共に凌ぎ易い春の季節を迎えましたが、ホッとする間もなく、今度は暑い夏の到来を思わせる季節を迎えております。荘員・職員とも主の守りを受けて、感謝いたします。

【新荘員】 5月に畠澤廣子姉(故畠澤雄光牧師夫人)が入荘されました。荘の周りを歩かれ健康に留意されておられます。入荘後も、令息夫妻の畠澤美雄師・かおり師の牧される宇佐美教会(静岡県伊東市)に、月一度通われておられます。聖餐式のある第一主日礼拝の奏楽と、教会学校および食事の用意等々のご奉仕のためです。

さらに、7月には、もう一人のご入荘者が予定されています。

【在荘者の様子】 嶺 尚師は昨年暮れバスの中で転倒され、青梅総合病院と多摩リハビリテー

ション病院に入院されておられましたが、6月下旬、足立区竹ノ塚にある施設に、澄子夫人共々移られる予定です。5月28日には、在荘者の代表と松村誠一施設長、三浦恵美子生活主任と私が病院を訪問。車椅子の嶺師とお二人の愛唱讃美歌388番を歌い、聖書を読み、祈りを献げました。

さらに6月4日昼食時には、澄子夫人を囲んで、荘員、職員との賛美と祈りの送別の時を持ちました。13年間荘での生活を共にされた嶺師ご夫妻との思い出が語られ、別れを惜しむひと時でした。

【職員の動き】 昨年一年間は、松村施設長が事務長兼の形を取り、実際の実務を、会計実務経験豊富な田中麻里子姉(溝ノ口教会員)がパートの形でこなしてくださいましたが、今年4月正式に事務長に就任。漸く松村施設長、三浦生活主任、山下生活主任補佐、田中事務長の4人の正職員体制が確立。これら正職員の献身的な働きなくして荘の運営が成り立ちません。

現地連絡調整運営委員、パー

ト職員、ボランティアの働きを含め、お祈りの内にお覚えください。



2018年5月 にじのいえ信愛荘 在荘の皆さま

■スタッフ自己紹介

青梅雑記



事務長
田中麻里子

長淵駐在のバス停から「にじのいえ信愛荘」に向かう道の脇、小川の流れる陽の光を浴びてキラキラと輝いています。下奥多摩橋からの多摩川は、二子橋からの多摩川とは違う表情を見せて流れています。

一軒家の多い河辺駅からの道沿いは、それぞれのお庭にある木が、季節を語ってくれます。東京にも、こんなところがあるんだーと、というのが今の私の思いです。

40年あまり一般企業で仕事をしてきた私が、ひよんなことから、この「にじのいえ信愛荘」のスタッフとなりました。

時には、営利を目的とする企業で働いていた私の常識や感じ方に戸惑いを覚える方がいるのでは……と思う日々ですが、どうぞよろしく願っています。

(神奈川・溝ノ口教会員)

「信愛荘50年記念誌」発行

「にじのいえ」と「信愛荘」が合併して8年が経ちました。過去に「信愛荘30年記念誌」が発行されていますので、続編として、この度「信愛荘50年記念誌・青梅の里」を発行します。30年記念誌発行後の信愛荘20年の足跡をはじめ、多目的ホール建設や合併事業について、そして荘員の方々、運営に関わった方々の手記をはじめ、関係資料を掲載しました。

合併前の信愛荘の締めくくりである50年誌が、貴重な記録として今後有効に用いられますよう願っています。

予告 チャリティコンサート

今年度チャリティコンサートは、次のとおり開催の予定です。これまで、秋期開催でしたが、今回は3月に変更されます。

日時 2019年3月9日

午後2～4時

出演 関西学院大グリークラブ

会場 未定

(募金小委員会 西村佳子)

にじのいえ信愛荘ご案内

「しおり」発行

この度新たに、しおりを作成しました。

隠退後のご転居先をお捜しの先生方に、このしおりをご紹介します。ただければ幸いです。

さらに、全国の教会・伝道所、信徒の皆様にも「にじのいえ信愛荘」の存在をまず知っていただくために、このしおりをご活用ください。支援の輪が広がり、更なる募金のご協力をお願いいたします。ご希望の方は、荘までご連絡ください。

新・運営委員 自己紹介



東京・千葉本町教会

奥山 盾夫

私は、高校1年で受洗しました。教団の全国高校生キャンプ参加がきっかけです。以来、所属教会だけでなく千葉支区の教会の先生たちや青年との交わりの中で育てられました。館山市内の「にじのいえ」はよく覚えていますが。運営委員(財務担当)推薦に神様の導きを感じます。

「にじのいえ信愛荘」

ご入荘へのご案内

「にじのいえ信愛荘」は、豊かな自然に恵まれた、緑の多い東京郊外の青梅市にあります。

伝道牧会に長く尽くされた隠退教師と配偶者の皆様、神の家族として、祈りに満ちたご生活をお過ごしです。毎朝の礼拝と食事を共にする以外は、自由な時間があります。また、訪問教会との交流やお茶会もあり、お花見など青梅の自然を楽しむ行事もあります。

27名ご入居可能ですが、現在20名がご入居で、単身者用は満室に近いですが、夫婦用が空いています。ご入荘をお待ちしています。ご入居の場合には、「身の周りのことが一人でできること」等の条件がありますが、身体の不調の場合には、病院の送り迎えをはじめ、スタッフが誠心誠意お世話をし、近隣病院との連携も密にして、介護保険によるサービス利用もできます。

月額食費・光熱費を含め7万円(新館)、6万5千円(旧館)です。ご相談や詳細は、どうぞご連絡(Tel・FAX・e-mail)ください。

維持献金・感謝とお願い

「にじのいえ信愛荘」のため、いつも皆様のご理解とご支援をいただき感謝です。

今後も継続的に維持管理していくために、皆様からの維持献金のご協力を何卒よろしくお願いいたします。

○この度、2017年度献金報告(含にじのいえ信愛荘決算書)を同封いたしました。不審点がありましたら、事務局までご連絡ください。

○事務局には振替用紙と専用の献金袋(個人)を用意していますので、ご利用の上、教会でまとめてご送金ください。

○献金者の中で、ご召天、転居、転会、中止の場合には、ご面倒でも、ご連絡(メールも可)いただけると助かります。

振替口座番号

001200-3-358467

加入者 にじのいえ信愛荘

TEL 0428 (22) 2283

FAX 0428 (22) 2317

Eメール

nijinoiesinaiiso@wish.ocn.ne.jp

莊日記



施設長 松村 誠一

●2017年11月

4日(土)河辺伝道所来訪(20名)

6日(火)お茶会(24名)・畠澤廣子姉

2週間体験入荘

第2回クリスマス準備会

9日(木)スタッフ会

11日(土)小平学園教会来荘(5名)

風呂の塩素メンテナンス

13日(月)広尾教会来訪(8名)

16日(木)井上医院健診

運営委員会

21日(火)紅葉狩り(16名)

26日(日)靈南坂教会・教会学校来訪

(7名)

27日(月)誕生会・相談会

28日(火)防災設備点検

●2017年12月

1日(金)庭の植栽

4日(月)お茶会(24名)

8日(金)第3回クリスマス準備会

11日(月)スタッフ会

13日(水)有料老人ホーム研修会出席

18日(月)相談会

20日(水)東京聖書学校クリスマス

来訪(4名)

21日(木)井上医院健診

22日(金)めぐみ幼稚園クリスマス

会参加(5名)

温水、暖房工事完了

23日(土)青梅キリスト教会キャロ

リング(6名)

26日(火)クリスマス礼拝・祝会(61

名)

28日(木)風呂使用開始

30日(土)全室電気系統チェック

●2018年1月

11日(木)スタッフ会

18日(木)井上医院健診

22日(月)第1回イースター委員会

インフルエンザ発生

27日(土)インフルエンザ終息

29日(月)誕生会・相談会

●2018年2月

5日(月)エレベーター点検

8日(木)スタッフ会

9日(金)レジオネラ菌検査

10日(土)ガス点検

15日(木)井上医院健診

23日(金)運営委員会

26日(月)誕生会・相談会

第2回イースター委員会

給食改善会議

●2018年3月

4日(日)阪口吉弘師礼拝説教奉仕

5日(月)お茶会(25名)

8日(木)スタッフ会

第3回イースター委員会

19日(月)エアコン設置工事

20日(火)風呂定期点検

電気設備安全点検

22日(木)井上医院健診

26日(月)誕生会・相談会

春の植栽

29日(木)原町田教会ジュニア聖歌

隊コンサート(28名)

●2018年4月

3日(火)イースター礼拝・祝会

(60名)

9日(月)お茶会(19名)

12日(木)スタッフ会

15日(日)墓前礼拝(11名)

16日(月)第4回イースター委員会

(反省会)

19日(木)井上医院健診

30日(月)誕生会・相談会

○2年間、毎月第一週の礼拝説教

をご担当いただきました清瀬

弘毅師に心から感謝申し上げます。

後任として前神奈川教会

牧師の阪口吉弘師がお引き受

けいただきましたので、感謝し

てご報告いたします。

○多くの先生方のご協力により、

主日礼拝を守っていますが、こ

の期間新たに、前浜松教会牧師

の勝田英嗣師が12月3日及び

4月1日に説教をお引き受け

くださり感謝いたします。

あとがき

第17号を全国の教会、読者の皆様にお届けします。

「にじのいえ信愛荘」となつて、9年目を迎えています。その間、天に召された方、ほかのホームや病院に移られた方もおいですが、新たなご入荘者もお迎えできて感謝です。

在荘の皆様が共に、み言葉に活かされ、祈りに満ちたご生活を日々続けておられますことが、働き人や私たち運営委員にとって、どんなにか励ましとなり、信仰の上でも導かれていることでしょう。

この度、「信愛荘50年記念誌」編集にも携わり、祈りに満ちた神の家族としてのありようが、信愛荘当初より今まで脈々と継承されていますことを教えられ、心を動かされました。是非これからも、荘の様子をお伝えしてまいりたいと思います。

(成松三千子)

編集委員会

長・成松三千子 (柿ノ木坂教会)

石井泰子 (小松川教会)

岸 俊彦師 (経堂北教会)

黒沢咲子 (下谷教会)

阪口和美 (金沢八景教会)

鈴木功男 (目白教会)